

授業科目名	社会科教育法 I	教員名	吉村 功太郎	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	必修
					幼稚園教諭	選択
					保育士	選択
科目番号	SID304	配当年次	3年前期		こども音楽療育士	
授業形態	演習				情報処理士	
単位数	2単位					
科目						
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	<p>現行教育課程の理念や小学校学習指導要領の基本構造に基づき、小学校社会科に関する基本的な考え方（社会科の基本的性格や、目標、内容、方法論、評価論）の学習をとおして初等社会科教育の基礎理論を修得する。</p> <p>(1)社会科の目標及び内容 学習指導要領に示された社会科の目標や内容を理解する。</p> <p>(2)社会科の指導方法と授業設計 基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p>					
到達目標	<p>(1)社会科の目標及び内容</p> <p>1)学習指導要領における社会科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。</p> <p>3)社会科の学習評価の考え方を理解している。</p> <p>4)社会科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。</p> <p>(2)社会科の指導方法と授業設計</p> <p>1)子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。</p> <p>2)社会科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。</p> <p>3)学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。</p> <p>4)模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。</p>					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本授業科目は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5.教育実践力を身につけている。」「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する目的で設定している。					
授業の概要	<p>社会科の目標である育成を目指す資質・能力の内実を理解し、学習指導要領に示された社会科の学習内容について、その背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。</p> <p>小学校社会科の基本構造について、小学校社会科の基本的性格（社会的知識と態度・能力の統一的育成）を軸として理解する。その上で、現行学習指導要領に基づく各学年の社会科の目標と内容、考え方やその指導の在り方を理解するとともに、具体的な単元構成や一単位時間の授業過程の構成を演習を通じて修得する。また、社会科における観点別評価の方法を学習する。</p> <p>本授業は単なる知識の習得だけでなく、実際の授業を構成して展開するための実践的能力の育成を図るため、授業時間や授業外課題などの演習的活動による実地的な学修を随時設定する（アクティブラーニング）。</p>					
履修条件・注意事項	2年次の「社会」を履修しておくこと。					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 小学校の教育課程と社会科（社会科は、小学校教育課程においてどのような位置にあるか）、小学校社会科教育の意義と課題（社会科を学習するのは何のためか）、小学校社会科をめぐる状況論（児童の社会的発達の現状や社会科嫌いの増加の現状等）。（目標(1)-1）</p> <p>第2回：社会科の教科の性格とその基本原理 社会科の基本的性格とは何か（社会的知識と態度・能力の統一的育成）。 昭和22年度、昭和33年度、昭和52年度、平成20年度、平成30年度学習指導要領の目標構造の比較、 態度目標＝社会の進展に力を致す態度・能力から、民主主義的態度、公民的資質の基礎への変化、学力観の変遷を理解。（目標(1)-1）</p> <p>第3回：社会科の基本的性格・目標（社会的知識と態度・能力の統一的育成）を達成するための学習方法原理 問題解決学習：児童の興味・関心・意欲（態度形成の原点）から出発し、社会的知識の獲得に迫る</p>					

方法、問題解決学習の考え方と典型的事例の学習指導案を通しての分析及びその問題点。(目標(2)-1)

系統的学習：社会に関する知識(政治、経済、社会、地理、歴史などの知識)の科学的系統性と児童の発達段階の系統性から、児童の興味・関心と呼び起こし、知識と態度の同時的育成に迫る方法(系統的学習：追体験を通して知識理解の獲得、探求学習法、発見学習法、検証学習法等)。(目標(2)-1)

第4回：社会科の基本的性格・目標(社会的知識と態度・能力の統一的育成)を達成するための学習方法原理(3)

「新しい学力観」に立つ及び「生きる力」を育む社会科学習：見学や調査活動の成果を表現することによって、社会的な関心や興味、態度と知識の統一的育成を図る方法。(目標(2)-1)

第5回：社会科の基本的性格・目標(社会的知識と態度・能力の統一的育成)を達成するための学習方法原理(4)

資質・能力の育成を中核とした学力の三つの柱を総合的に育む社会科学習(新指導要領の基本方針と要点及び小学校社会科学習指導要領の基本的考え方)について、学習指導案を通して考える。(目標(2)-1)

第6回：第3学年(市区町村レベルでの地域学習)の目標、内容と指導計画作成の基本的な考え方

身近な地域や市区町村の様子について、地形、土地利用や位置、交通の状況、生産や販売の仕事、地域の安全を守る働き、市の様子の移り変わりなどについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して身につけるという学習活動の趣旨の理解ならびに具体的な授業構成の方法について考える。(目標(1)-2)

第7回：第4学年(都道府県レベルでの地域学習)の目標、内容と基本原理

都道府県の様子について、地理的環境の概要、人々の健康や生活環境を支える事業、自然災害から人々を守る活動、県内の伝統や文化、先人の働き、県内の特色ある地域の様子等について、学習の問題を追究・解決する活動を通して身につけるという学習活動の趣旨の理解ならびに具体的な授業構成の方法について考える。(目標(1)-2)

第8回：第5学年社会科の目標、内容と基本的な考え方

地理・産業学習の目標、課題と方法：国土の様子や特色を、広い視野から理解し、国土の保全や自然災害の防止に努めることが国民生活の維持・向上に重要であることを理解することによって、国土に対する愛情を育てる。産業が国民生活に重要な役割を果たしていることへの理解。(目標(1)-2)

第9回：第6学年社会科単元の目標内容と基本的な考え方(1)

歴史学習の目標、課題と方法：我が国の伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を育てる。歴史学習を通して民主主義社会の形成者としての市民に求められる資質・能力(市民的資質)を育成する。国宝、重要文化財に登録されているものを取り上げ、我が国の代表的な文化遺産を通して学習する。歴史上の人物が当時の世の中の課題を解決し、人々の願いを実現していったことを共感的に理解する。身近な地域の視点も大切にす。(目標(1)-2)

第10回：第6学年社会科単元の目標、内容と基本的な考え方(2)

我が国の政治の働きに関する学習の目標、課題と方法：日常生活における政治の働きについて具体的に理解できるようにする。我が国の民主政治の考え方が日本国憲法の基本的な考え方に基づいていることを理解。国際理解に関する学習の目標、課題と方法：我が国とつながりの深い国の人々の生活の様子、国際社会における我が国の役割を理解し、平和を願う日本人としての自覚を育成。(目標(1)-2)

第11回：教材研究の目的と意義、方法論と具体的な手順

教材研究とは何を行うことなのかを具体的に理解した上で、授業構成における教材研究の目的と意義について理解を深める。その上で、教材研究の方法論について、いくつかの考え方に触れた上で、具体的な教材研究の方法を実地的に示し、学習者の実態を踏まえた適切な教材研究ができるような資質を形成する。(目標(2)-1)、(目標(2)-2)

第12回：ICT・情報機器を活用した授業構成や授業展開上の工夫はどうすれば良いか

ICTを活用し、問題解決的な学習において必要な資料提示の工夫、意見交換を通じた深い学びに役立つタブレットや電子黒板などの活用法について、具体的な授業実践例を通じて学ぶ。(目標(2)-2)

第13回：問題解決的な学習に基づく小学校社会科の授業構築と学習指導案作成

思考力・判断力・表現力を育成するための①知る、②わかる、③判断する、④表現する活動、市民的資質の育成、「生きる」ための活動、論理的思考と価値判断の指導を踏まえて、グループに分かれて任意の学年単元を選び学習指導案を作成する。(目標(2)-3)

第14回：社会科模擬授業

作成した学習指導案を検討し、グループの代表者が模擬授業を行う。終了後、相互に評価し合う。(目標(2)-4)

第15回：社会科授業における評価方法の問題

小学校社会科観点別学習状況評価について、評価の在り方について、学校教育法・学習指導要領の趣旨を踏まえた評価の観点に関する考え方、4観点の趣旨と留意点を学ぶ。「個」に応じた評価、個に応じた指導と評価のあり方を考える。学習における児童生徒の多様性についての認識観点に沿った児童生徒の実態把握とその分析、学習形態、評価方法の工夫を考える。(目標(1)-3)

期末試験

授業外学修時間の確保について	予習課題や授業後の復習課題等の実施と提出を求めるので、適宜取り組むこと。 また、学習指導案の作成も行うので、必要な教材研究や教具の作成等にも取り組むこと。
学生に対する評価	期末試験60%、授業中や授業後の課題40%で評価する。 なお、授業中や授業後の課題へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業中に、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
テキスト	『小学校学習指導要領（平成29年告示）』 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』
参考書・参考資料等	適宜紹介する。また教員作成のレジュメや資料を配付する。
担当者からのメッセージ	授業内容を単に記憶するのではなく、理解して柔軟に使いこなせるようになることを目指してください。
オフィスアワー	非常勤講師のため、必要に応じて適宜設定します（メールで連絡のこと）。
備考	